

議 事 録

開催日時	平成27年9月25日(金) 午後1時30分から午後15時30分まで
開催場所	新居浜市消防庁舎4階 コミュニティ防災センター研修室
出席者	<p>1 委員</p> <p>(1) 団体委員 15名 日野座長、三並委員、柴田委員、竹内委員、沖委員、永井委員、星加委員、内田委員、豊田委員、渡邊(誠)委員、渡邊(照)委員、塩見委員、太田委員、片上委員、斉藤委員</p> <p>(2) 職員委員 10名 関委員(市民部長)、岡松委員(市民部次長兼地域コミュニティ課長)、松木委員(地域コミュニティ課主幹)、白石委員(防災安全課主幹)、高橋委員(人事課副課長)、桑内委員(地域福祉課副課長)、大田委員(介護福祉課係長)、加藤委員(ごみ減量化副課長)、菊池委員(代理・中西社会教育課副課長)、宇野委員(総合政策課係長)</p> <p>2 委員以外の事務局職員 地域コミュニティ課職員 2名</p>
傍聴者	2名
議事内容	<p>1 委員紹介</p> <p>2 議事 (1) 今年度のコミュニティ再生ワーキンググループのテーマ及び進め方について (2) 特色あるまちづくりを進めている校区の活動紹介 (3) 「小規模多機能自治」による新たなまちづくりの手法について</p> <p>3 意見交換</p>
議事録	議事の概要は、次のとおり。
事務局	(開会の宣言、趣旨説明) 本日皆様にお越しいただきましたのは、当コミュニティ再生ワーキンググループは、平成27年度第2回政策懇談会で、他のワーキンググループとともに、本年度も継続することが決定されたことによるものです。また、座長には連合自治会の日野会長が指名され、昨年度に引き続きお引き受けいただくことが決定しております。これからの議事運営は座長にお願いいたします。
座長	<p>お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。委員の皆様には、昨年度熱心にご議論をいただきお礼を申し上げます。今年度も引き続き委員の皆様のお知恵をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に従いまして進めてまいります。初めに、交代されている委員さんもおられますことから、ご出席の委員さんの自己紹介をお願いします。</p>

各委員	(団体委員、職員委員、順次自己紹介)
座長	それでは、さっそく議事に入ります。「今年度のコミュニティ再生ワーキンググループのテーマ及び進め方」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>(資料・プロジェクター映像により説明、以下概要)</p> <p>第2回政策懇談会で、4つのワーキンググループでテーマを絞って議論することが決定され、地方創生の総合戦略に絡み、コミュニティ再生ワーキンググループは「時代に合ったまちづくり」というテーマが与えられております。</p> <p>第1回会議で、市内の特色あるまちづくりの2地区の事例紹介、小規模多機能自治による新たなまちづくりの紹介を行い、これらをヒントに、今後、人口減、少子高齢化に対応できるまちづくりの仕組み、持続可能なまちづくりの仕組み、地域担当職員制度や協議会型住民自治組織を検討していき、新居浜市が目指すべき時代に合ったまちづくりの方向性を議論できればと考えています。</p>
座長	先ほどの事務局からの説明に対し、ご質問はありませんか。
各委員	(質疑なし)
座長	<p>それでは、このようなテーマを進めていくことといたします。</p> <p>では「特色あるまちづくりを進めている校区の活動紹介」に移ります。本日は、太田委員さんと柴田委員さんに、泉川校区と高津校区の事例紹介をお願いしております。まず、泉川校区について、太田委員さんよろしくをお願いします。</p>
太田委員	<p>(資料・プロジェクター映像により説明：以下概要)</p> <p>住民自主組織としてまちづくり協議会をつくり、「自分たちでできることは自分たちでやろう」を合言葉に活動をはじめて10年を迎え、住民の意識が変わりつつあります。</p> <p>「大好き泉川」を掲げ、地域主導型公民館に取り組み、「何ができるか」を真剣に考え行動する人が増えました。主体的に動く、人材を発掘して育てる、公民館が引っ張るのではなくみんなに担ってもらおうということは正しかったと思います。</p> <p>泉川校区は地域が独自にまちづくり協議会を立ち上げました。縦割りの団体依存から、横につながり、連携したネットワークで地域の課題を解決しようという方向を目指そうとしたのが、新しいまちづくり協議会づくりの原点でした。</p> <p>地域主導型公民館を目指すとき、はじめに全世帯へのアンケート調査に取り組みました。地域住民の意見を正しく知り、まちづくりの戦略を練り直す上で成果がありました。次に、ワークショップで地域課題を焦点化しました。5つを校区課題とし、その後の新しい組織づくりに繋がりました。次に、先進地との情報交換会を行いました。様々な地域との情報交換は大きな財産になりました。それから地域課題を解決する組織づくりに取り組みました。行政主導ではないので試行錯誤で、設立総会まで3年、規約策定に5年を要しました。</p>

まちづくり協議会の基本スタンスは、既存の組織は残して緩やかに繋げる、まず自分達でやり、できないことを次の段階に持ち上げる補完性の原理、各部長には責任を持たせ権限も委ねる、可能な限り若手、新規人材を登用するという事です。

公民館とまちづくり協議会は同じものを目指しています。まちづくり協議会の活動は全て公民館活動です。公民館は、まちづくり協議会・地域住民の総合事務局だと思い、自立を促し、支援のスタンスで取り組んでいます。

泉川まちづくり協議会は「大好き泉川まちづくり寄付金」という独自の制度を創りました。各事業所を訪ね、一口3千円の寄付金で集めた約百万円を原資に、各部会がプレゼンで予算獲得合戦を行い、責任と信頼関係で事業を展開しています。

安全安心部会は、見守り活動や自主防災組織、子ども達と一緒に安全マップの作成やまち歩きに取り組んでいます。環境美化部会は、国道アダプトプログラムや花いっぱい運動、空き家対策事業や大型ごみ回収活動に取り組んでいます。地域福祉部会は、社会福祉協議会等と連携した喜寿を祝う年輪のつどい、金婚式の夫婦やボランティアへの感謝祭、健康づくり部会と連携した健康寿命延伸プログラムに取り組んでいます。健康づくり部会は、エクササイズウォーキング・軽スポーツ普及、食育、泉川健康体操に取り組んでいます。子ども支援部会は、少年自然の家体験学習などの年中行事、大好き泉川っ子教室、学校支援活動に取り組んでいます。子どもの方から挨拶ができ、花いっぱい運動などにも参加してくれるようになりました。生涯学習部会は、5つの部会を「学ぶこと」で繋ぎます。各部会のテーマから講師を選び、「泉川ふるさと塾」を開設しています。従来、公民館職員が講座を企画していましたが、今は生涯学習部会が社会の要請に応える必要課題で組み上げます。

まちづくり協議会の会議は、毎月12日に全部会合同開催し、公民館の6つの部屋に分かれて行います。合同会議や掛け持ちもあり、無駄も省け、連携も強化できます。15日には各部会の結果を持ち寄り、自治会ブロック長も集めた総務部会で情報を共有し、月末の自治会ブロック長会で報告、各自治会に流します。

公民館とまちづくり協議会の連携で、地域が変わってきたと感じます。公民館だけでは決してこうはいかなかったと思います。毎年新規事業が生まれ、新たなリーダーが育ってきました。全国の公民館関係者との交流の機会も増えています。

まちづくり協議会の課題は、人材の確保、特に女性の人材確保は重要です。また、公民館を取巻く職員と予算はますます厳しくなります。大切なのは地域の将来ビジョンの策定です。十年先の目指すべき姿をイメージし、住民にストーリーを語る必要があると、そのためにもっと話し合う機会が必要です。

公民館や地域活動はアウトカム評価に基準を移すことが大事です。将来のリーダーが何人育ったか、地域がどう変わったかを評価することが地域を変えていきます。自分達でやるを当たり前にしなければ地域づくりはできません。当事者意識で地

	<p>域に関われば愛着が深まり、心が繋がれば地域は変わります。今できることに取り組むことこそが大事です。地域の一員として頑張ってみるといったときに活動できる場がある、そんなまちづくりを目指していきたいと思っています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。引き続き高津校区について、お願いします。</p>
柴田委員	<p>(資料・プレゼンテーションファイルに基づき説明。以下概要)</p> <p>平成24年4月から半年間、校区の状況を内部から見て課題を見つけ、自分たちで将来のまちづくりの取り組みが必要と考えました。安全な地域づくり、一人暮らしの高齢者の増加、高齢者や体が不自由な人のプライバシーの問題、連帯意識の希薄化、自治会加入者の減少、将来人口減少への対策などの課題がありました。</p> <p>解決策として、次世代リーダーの育成、中間年齢層を中心とした組織づくり、目標のあるまちづくりなどが必要と考えました。これらの実施で、地域力の向上、人口確保、地域全体の交流、安全な地域づくりなどが期待されます。</p> <p>課題の第1番目は、民生委員、社会体育指導員、愛護班、老人クラブ、社会福祉協議会、見守り隊、交通指導員など諸団体の後継者不足です。</p> <p>2番目は自治会員の減少です。未加入者が3月・4月に公民館にごみカレンダーを取りに来ます。この際に理由を聞きますが、理由は様々です。</p> <p>第3番目に、南海トラフ巨大地震の対策ができているかということです。堤防が崩れると、津波で校区の3分の1が浸水します。消防分団長や高津派出所長に公民館運審委員に加わっていただいたり、津波到達地点測量・高さ表示板設置、愛護会行事や自治会役員会の時に災害勉強会をしました。</p> <p>4番目に将来の人口減少に備えたまちづくりができているかということです。人口が減少しても誰もが高津地区で生活したくなるような立派なまちづくりをみんなと一緒に作るために、高津まちづくり構想を作成しようと思いました。</p> <p>まちづくり構想の策定にはまずは人材育成が必要と考え、人材育成、構想、実施計画、実施という流れを考えました。人材育成は、長期的なリーダー育成を目指し、各青年団・自治会長と協議を重ね、平成25年度青年リーダー育成事業に取り組みました。青年団員のリーダー育成により、長期的に各地域の団体のリーダーになっていただき、まちづくりに加わり、校区の目標に向かって、安全な地域づくり、青少年の健全育成、地域の連携などに取り組み、達成することを考えました。</p> <p>平成26年度に高津まちづくりの組織を作るため、公民官報でまちづくり委員を募集しました。応募は一人でしたが、あと23人を選び、24人のまちづくり策定委員を発足しました。別組織として公民館運審委員18名を特別委員、また、第1回の策定委員会に来てくれた方の中から推進委員13名を選び、合計55名、事務局として私を含めた公民館職員3名で出発しました。当初は運審の委員長を会長、副委員長を副会長としましたが、後に企画委員長を一人設けました。</p>

	<p>当初、住民交流、福祉関係、青少年健全育成、環境・防災、都市基盤の5つの分野と総合理念を考えましたが、最終的には、8分野の組み立てとなりました。</p> <p>各分野の標準の流れは、1回目はワークショップ、2回目はワークショップまとめ案提示、3回目は討議、最後にまとめと、4か月かけ、それぞれ重なりながら、昨年6月から今年7月まで時間をかけ、延べ約490人に参加いただきました。</p> <p>8月から実施計画を策定中です。実施計画は各8分野のリーダーと委員を決め、実効性、費用等を議論、判定をしながら、実行主体、時期、期間について、煮詰めています。来年は構想と実施計画をあわせて冊子にし、配布しようと思っています。</p> <p>(高津まちづくり構想の概要を説明)</p> <p>まちづくりは時間をかけてしなければなりません。過去の人、現在の人、未来の人に引き継いでしなければなりません。そういう話を校区の中でしています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。ただいまのお二人の委員さんの説明について、お聞きしたいことがあればお願いします。</p>
委員	<p>新しい組織を作る場合、既存組織とどう噛み合わせるかということが問題になります。泉川の事例では既存組織を残してゆるやかな繋がりという説明でしたが、新旧2つの組織があれば、主導権はどちらが握るのか、イベント日程の調整、予算の配分等で問題は起こっていないのでしょうか。</p>
太田委員	<p>既存の組織を解体するのではなく、ゆるやかにつなげ、新たに上乘せし、幅を広く持っていく感覚で協議会を作っていくニュアンスです。委員が多少被る問題は出てきますが、両方を対峙させるのではなく、合わせて大きい組織にしていく、既存のいい企画は残し、新たに現在の問題点を新しい組織を上乘せして被せていく形でやれば、そこまで問題点は起きないのではないかと思います。予算も既存のものも合わせて一緒に使う、新たに足していくという考えでやっています。</p>
関委員	<p>はじめは既存の組織があるのに何故類似の部会を作るのかという議論がありました。既存の団体でやるべきことを、もう一つ幅広く包み込むような事業、交通安全でいえば、交通安全教室に人が寄らなくなり、それを安心安全部会でもっと幅広くみんなで声かけし、人を集めたことにより、距離感が縮まったこともありました。今までのものは既存の組織に任せ、新しい事業を部会で行うスタンスです。安心安全部会では、子どもたちの安心安全を促すために地域をみんなでまち歩きをしてマップを作ったり、中学生に交通安全を理解してもらうために、一緒に通学路を一緒に歩く活動をしたのがプラスに働いたと思います。自分らの持っているものは尊重しながら新たなものを創造していく取り組みで進めてきました。</p> <p>自治会とまちづくり協議会とどっちが上かもよく議論しましたが、これを超えたところで両組織を融合させようという方向の議論をしている実態です。ぶつかりながらいい方向を見つけていくような形かなと感じています。まだまだ試行錯誤です。</p>

委員	<p>私も公民館に従事しており、両事例には感心します。自分たちもまちづくり協議会を作っていますが、公民館と自治会、まちづくりの関連性を今後どう持っていけば良いのか考えています。公民館が前に出すぎても引っ込んで駄目で、各種団体の調整を上手にする必要があると最近思っています。如何に組織を変えていくか、時代に合った組織づくりを考えていかなければならないという現状です。</p>
委員	<p>我々のところではそれだけのリーダーシップを持った人がいません。泉川は大したものだと思います。</p>
委員	<p>泉川の活動に関心します。泉川まちづくり寄付金は、年間どのくらいの金額が集まるのか、どの程度使うのか、貯めるのか、教えていただけませんか。</p>
太田委員	<p>寄付金は、自治会から頂いているものも含めて年間100万円が集まっています。校区内の企業に地域の活動に参画してもらおうということで、自治会長や企業とつながりのある人とご一緒に企業のトップと地域についての話をさせていただき、金額は様々ですが、できる範囲の寄付をいただいています。私は企業から協議会に参加していますが、当社は寄付金だけではなく、子供の面倒をみるようにしています。中学校が荒れていたときに、同校の卒業生や自治会長と一緒に中学校に入り、環境学習を一緒にやったということがあります。企業と地域の一体感が固く密着している地域であり、寄付金が集まるのは特殊かもしれません。</p> <p>寄付金は、事業に振り分けて、余る場合は繰越、残らない場合もあります。活動に合わせて金額を決めています。</p>
座長	<p>それでは議事の3番目に移ります。小規模多機能自治による新たなまちづくりの手法について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料・プロジェクター映像により説明：以下概要)</p> <p>小規模多機能自治とは、島根県雲南市の地域自主組織の仕組、小規模ながらも様々な機能を持った住民自治の仕組みです。概ね小学校区域で、分野を横断して統合し、住民参画、住民団体を含めた協働の仕組みです。</p> <p>雲南市は、高齢化が進む中、平成16年の合併をきっかけに地域自主組織が設立されました。その後、特徴であるまちづくり基本条例を制定しています。</p> <p>新たな地縁モデルは、地縁による団体、地縁組織、目的型組織、属性型組織が結集し、地域課題を自ら解決する意図で、長所を活かし補完しあい、地域の振興・発展を狙い、地域の経営体を形成します。総働とは、団体と行政が相互に協力し合うだけでなく、団体、学校、事業者等が多様な主体で協働するものです。</p> <p>地域自主組織の活動拠点の在り方は段階的に移行しています。元々、公民館活動に地域住民が参加するスタイルでしたが、第1ステージで、公民館が交流センターとして市長事務局に移行し、地域自主組織に指定管理をし、地域の活動拠点と位置付けられます。交付金、地域づくり担当職員での支援も行い、生涯学習活動に加</p>

	<p>え、地域づくり、地域福祉を取り込みんでいきます。センター長や職員は市が雇用しますが、協力員を地域自主組織が雇用します。</p> <p>移行後3年目の検証で、交流センターと地域自主組織との一体化が必要と整理され、第2ステージの移行をします。地域自主組織が職員を直接雇用することにより、交流センターと地域自主組織を名実ともに一体化を図り、持続可能性の確保、安心安全の確保、歴史・文化の継承という大きい意味合いの事業を展開します。</p> <p>交流センターの基本的基準は、地域住民が寄りやすい場所であることなど、4点で定められており、持続可能な地域づくりのポイントも、地縁型住民による住民のための組織であることなど6点で整理されています。</p> <p>地域と行政の協議は、平成25年度から導入された地域円卓会議というもので、直接的に横断的に分野別に行われています。地域と行政が対等な立場で、テーマを主役に行われています。</p>
座長	事務局の説明に対し、何かご意見はありませんか。
委員	<p>公民館を主体にまちづくりを進めるのがもっと早いと思いますが、平成20年から地域主導型に移行され、泉川や高津など先進的に取り組まれている事例もあるものの、他の多くの校区は地域主導と言っても、実質市が主導権を握っていると思います。リーダーがないという意見がありましたが、それが現実です。</p> <p>地域主導型が8年目になっていますが、そろそろ地域づくりをこういう形で進めていてもらいたいという指針を行政が示さないと、今の体制では限度があると思います。自分の地区では活発な活動をしていますし、地域主導型公民館の活動もできていますが、指定管理や市長部局への移行の問題もあるので、まずきちんと行政が長期の計画など、まちづくりを進める方向を示さないと、勉強会だけでは前を向いて進まないのではないかと思います。</p>
関委員	<p>地域主導への移行後、各地域で方向性を模索し、公民館予算とコミュニティの交付金を合わせ、各校区の路線で展開してきたのが新居浜市の状況だと思います。</p> <p>公民館の財源や人の問題など、克服すべき課題が表に出てくる時期ではないかと思います。職員は今6年の縛りで動いており、継続性担保の議論が間違いなく出てきます。こういう問題を詰める場として、ワーキンググループで議論を進め、教育委員会とも協議し、まちづくりの方向性を作っていくべきだと思います。</p> <p>介護保険制度の中で、平成29年度から生活支援コーディネーター制度が新たに起こり、地域の中で高齢者サービスを提供する機能を引き受けるということに移行しますが、公民館は社会教育だけではなく、地域福祉を担わなければならない施設になるのではという議論が出てきます。それをここで皆さんの忌憚のない意見をいただき、意見提案していくことで、次のステージへ移行したいと思います。</p>
座長	7年前にこういう論議をされて移行すべきだったと思います。単に市の職員を返

	<p>ただけと感じている人も多いと思います。しかし、遅ればせながらワーキンググループの中で議論をしようということですので、指定管理の問題、今からのまちづくりをどうするかというのを、公民館の問題も含めて、新居浜市全体の中で考え、委員の皆様の意見を集約させていただいて、市長に提案したいと思います。</p> <p>他に意見がありましたらお願いします。以後、全体を通じた論議といたします。</p>
委員	<p>公民館や自治会の会議の仕方がうまくいっていないのではないのでしょうか。例えばロバート議事法に従って、順々に少しずつ決定できる組織を作っていければ、ステップアップが早いと思います。公民館や自治会長さんには会議の仕方を勉強していただき、しっかりした会議のルールづくりから始めてみれば良いと思います。</p>
座長	<p>今の公民館の中身の話だと思います。校区によってはできているところがあると思いますが、公民館の会でこのような提案があることをお話していただけたらと思います。私も自治会の中で話をしたいと思います。</p>
座長	<p>高津は事務局は公民館の職員がしているとのことですが、泉川ではどうですか。</p>
委員	<p>基本は公民館が事務局ととらえています。</p>
座長	<p>地域によって差があるとも思うのですが、公民館が事務的なことを担うことについて、教育員会はどうとらえていますか。</p>
委員	<p>キャパシティの問題もありますが、公民館は地域にかかわっていく必要があると考えています。</p>
委員	<p>地域主導型公民館になるとき、地域の橋渡し、コーディネーター役として職員を活用してもらいたいという説明だったので、当たり前ではないのでしょうか。</p>
委員	<p>公務員なので、災害などあったら24時間体制になります。自分の公民館ではそういう話をしています。</p>
委員	<p>一人一人のスキルの問題もあります。地域の中に入り込んで一緒にできる人もいれば、そこまで中々できない状況の人もおり、温度差が出てきているのかもしれない。地域主導に変えるときに、公民館主事は社会教育主事の資格をとって専門性を高めようということ動いた経緯もありました。</p>
委員	<p>人事に関して市が主導していて、地域は文句は言えないんですね。温度差はありますよ。職員を地域で選べるような方法もまず考える必要がありますね。</p>
委員	<p>6年したら主事さん主事補さんはベテランでもやめないといけない。主事・主事補さんの処遇も含めて考える時期が来ていると思います。</p>
委員	<p>自分の地区ではたいへんよくやってくれています。</p>
座長	<p>個々人のことではなく、教育委員会の考え方が聞きたかったのですが、地域と一緒にやっていただける体制づくりが必要です。地域は実践活動をしますが、パソコンでの事務仕事は大変だというのが本音です。</p>
委員	<p>従来の問題点の協議もよいと思いますが、小規模多機能自治による新たなまちづ</p>

	<p>くりの手法について、もっと入り込んで議論すれば良いと思います。公民館から交流センターへの移行について、新居浜市はできるのでしょうか。</p>
座長	<p>私は、考えなければいけない、このままでは前進はないと思っています、貸館的な公民館は今後ありえないと思います。教育委員会では範囲が限られてしまい、移行することによって、活動の場が広がるのではと思いますが、これも含めて皆さんに議論いただければと思います。</p>
座長	<p>ほかになければ最後に市民部長に締めくくっていただきたいと思います。</p>
関委員	<p>戦後公民館ができて60余年が経ち、生涯学習拠点としてだけの公民館ではなく、地域を作っていく拠点となるべきという話は、中央教育審議会の中でも出ています。</p> <p>まちづくりの仕組みを議論していく中で、今までの流れをどう変革していけば良いかという議論がこの場で起こり、市全体の話にできればと思います。色々なものを出し合って、交通整理ができればと思います。これからもよろしくお願いします。</p>
座長	<p>以上で第1回コミュニティ再生ワーキンググループを終わります。次回の開催は事務局と日程調整のうえ、ご連絡いたします。ありがとうございました。</p>

(閉会 15:30)